

F 163

醫術家傳

No. 27



富士川文庫

1340

# 醫術家傳集

或人予ふらふく通以常  
 傷此醫の士大表乃余より  
 て救民妙薬集と編纂事  
 を志流道中よりして後  
 駿河守志を以てしとを  
 八巻にて作らばし  
 醫者此者故に述わ  
 頼吾子家  
 を  
 或んやと云予その  
 うりとして其の





殖者小便多通不止

產後玉門不塞

產後玉門出不入

婦人乳腫物 婦人乳爛痛

玉門中瘡出痛

玉門うゆこ

玉門腫痛

用水通時腹強痛

產後血塊

產後腫氣

切疝血止

衄血菜

疝洗菜

疝筋續

鼻中臭汁出

鼻中生肉出

鼻こらぬ

鼻痛

鼻鼻菜

鼻下赤爛

鼻瘡

鼻茸菜

舌腫物出痛

木舌菜

傷寒後舌出不入

舌とと菜

産時舌出不入

舌血流出

舌とびを痛

小兒舌痛腫ととむ

齒莖腫痛

同齒動

小兒齒遲

牙齒痛

眼の不菜

うこい

星眼菜

土気

つこ目

目成赤腫



目之ふつと痛目痛 廿

酉目菜酉目菜

耳鳴耳鳴 廿

耳中蟻入耳中蟻入

耳中腫物痛耳中腫物痛

苦虫苦虫 廿三

躰氣躰氣 廿四

湯火傷湯火傷 廿五

矢根其外鉄立矢根其外鉄立 廿七

首接菜首接菜 廿七

骨接骨接 廿七

簽刺菜簽刺菜 廿八

痘瘡目入痘瘡目入 廿

佛耳不聞佛耳不聞 廿

虫耳中入虫耳中入 廿

聾耳聾耳 廿

田虫田虫 廿二

癩風癩風 廿三

撲傷撲傷 廿四

筋こた筋こた 廿七

骨立骨立 廿八

いすの菜いすの菜 廿八

瘰癧瘰癧 廿八

日種日種 廿九

いさういさう 卅一

瘡菜瘡菜 卅二

錢瘡痒如癩錢瘡痒如癩

驚馬風驚馬風

小兒疥小兒疥 瘡瘡

小瘡水瘡小瘡水瘡 卅三

くしとの菜くしとの菜

諸痺諸痺

大虫菜大虫菜

目いふ目いふ 廿九

疥腫疥腫 三十

瘡疹瘡疹 卅一

小兒瘡爛小兒瘡爛 卅二

小兒眉瘡小兒眉瘡

小兒疥爛小兒疥爛

疱瘡疱瘡 卅三

頭瘡頭瘡 卅四

白禿瘡白禿瘡 卅五

小兒豆痺小兒豆痺

諸虫諸虫 卅六

麻痺麻痺 卅七

小便閉	大便閉	便數遺尿	便毒	毒氣	下風	疔白	囊爛	陰痿	脫肛	痔瘻	允痔	下血	遺精	吐血	脚氣	腰痛	瘡疾	毒虫	魚毒消	灸風
四八	四八	四九	四九	五一	四一	五一	四一	五一	四二	四三	四三	四四	四四	四六	四七	四七	四六	四七	四七	四七

鼠喰	漆毒	黃疽	水腫	癩癩	疫疔	胸虫	長血	喘息	痢疾	五膈	飢逆	積聚	中暑	右病症	治方
四八	四八	四九	四九	五十一	五十一	五十一	五十一	五十一	五十一	五十二	五十三	五十四	五十四	百四十五	四百方

醫術家傳集目錄 畢

醫術家傳集

中風

諸中風 吉

菜根

おのり下はあふん  
よくあふんをササ  
切一尺又寸まらるふは  
くく七祀

漆木根

右の菜根と向く

右十四把の菜の水又木入を三

束のせんと二番の水を三束入

一升又合のせんと一番と合

昼夜よく用るたのり



産後血暈 吉

干鮭一匁 青ジト

三ツ喃と丸ととと

右二味黒焼くろやきしてすけ湯ゆとまへて用もち

下げ茶ちのな湯ゆとまへて用もち

又方 産後血暈 吉

白芷 蒲黄 各一匁

天花粉 俗云くくそりれ粉

寒晒餅米 三匁

右粉よして湯よてりらる

産後血不止 吉

地黄 阿膠 等分

右二味七分せんして利りらる

同後腹疼 吉

揚梅皮 俗云やまら茶の皮

右粉よして味噌汁よてり

産後玉門子宮出 吉

蚶貝あわいの汁あわいをいへば

又方 大麦乃粉を付て

腰湯こしさくさくして

産後小便不通 吉

らあやのさ 日よりて

かんざう 五分

右二灸は太目より三盃入二盃  
よせん二番より二盃入二盃  
よせん一のちうしん

同腰気ニ吉

梅干

くろやまこ 蕪木 俗云

若手粉 縮じ包玉中へ

さし入なり糸と針さし引

出でのこひてしつかなり

同産前産後気付ニ吉

芥葉

俗云よまごれ

葎草

俗云よまごれ

大尾草

薊草

右四色五月五日よらあ

げ馬の小使は五日侵とりあ

日みり 黒焼ゆでりあ

かろ舌血下ろふハ午漆りく

ろやれとあるらり

死胎ニ吉

死胎ハ子入り中よ

好酒よ黒豆とあし

又方有雞卵印とあ

又方有雞卵印とあ

又方有雞卵印とあ



入めしめてのちうは

又方 午漆とせんと用く

又方 あげ馬の小便と用

まじり死胎やうだもるり

傷産血下止吉

雞の卵とらちやれし

ほすてのちうは

又方 生姜のちうは

又方 阿膠の粉とほすて用く

又方 蒲黄のちうは

しめて粉しほすて用く

妊者胎内子動下血吉

葱白 俗云秘方のちうは

おせんト用く

又方 芥葉ほすて用く

い

又方 生のうす竹のあは皮を粉

して用く

妊者俄腹痛吉

銅を焼てほすてそのほと

用く

又葱白とせん

し右のほとあはせく



姓者俄胸疼 吉

くろ竹の皮をこきあげてせん

トのちゆー

又方 維の印は子好はよ

入てあつくとて用ゆー

又方 黒豆はんと用ゆー

又方 阿膠 桂心 等分

右はよとて用ゆー

又方 麻の角を焼粉ふく

ほよとて用ゆー

又方 ぬぐい虎一田ゆー

姓者小便血下ニ吉

龍骨は粉はくとほゆー

月よとてなづくのちゆー

姓者小便多通不止 吉

葵實 よきれ木の皮

右等分とて用ゆー

又方 小豆とて食ゆー

玉門不閉 吉

石灰炒て青葉と一つは

水よてぶらとせんとて用

灰の妙とてその水れ中

へかりうとてせくと右のち

葉はゆてよとて玉門を

洗方

又方 びりりるをえし洗

至門出不入ニ吉

亀の甲をわらわえし洗

用て

又方 蕪木 俗云とよの

鳥賊甲 忍冬 俗云とよ

右三皮等分して粉じて

さくくつけて

乳腫物ニ吉 黄柏根生

てらりて酢をけりて

又方 弓の弦少く乳をのいて

とをたらりて朱をて

白米魚腸如律令と

い文をいす者て

乳爛疼ニ吉 桂心末とほ

よてとよとぬる

又方 めろろを一染り

てせんし洗て

又方 鼠 俗云とよ 亂髪 俗云とよ

松脂 等分

右三皮粉りて研ふてとれ

洗けてす



玉門中瘡出疼 吉

桃の皮とつとさきからけよ

黄柏乃粉とひいて栗乃

大ささら丸にして玉門へ入て

昼夜小二夜つれぬるまで

又方 大の尻茶乃根とせん

はてしと餅を焚きと

玉門痒 吉 地骨皮とせん

トはるべし

玉門腫痛 吉 當飯 三分

大黃 二分 其 一分

右粉よして縮よつて中へ入

てし

又方 桃仁 小豆の中の

右炒て粉よして竹くよ

膨水時腹痛 吉

芍薬とせん下のり魚

又方 枇杷葉とせん下のり

産後血塊 吉

當飯はよくせん下のり

又方 黑豆とせん下のり

産後腫気 吉

黑豆とせん下のり





騏驎血 あけける乃ちうなり新  
りまて粉可して一丈

右に色粉少して瘰癧い移り

くろくろりいりまうりよむいり

ひ移りくろくろり

又方

石灰 小釜に入二十日水よ  
てうらむと白くす  
水浴くぬるなり

にら くろくろりあけける  
なり

右にくろくろりいりまうりよむいり

十日つりまうりよむいり

かり

又方 紫且 不くろくろり  
ホ分

右粉少してい移りくろくろり

又方 黒糖 くろくろり  
あけける乃ちうなり新  
りまて粉可して一丈

いとろりいりまうりよむいり

妙なり

又方 百草 くろくろり  
あけける乃ちうなり新  
りまて粉可して一丈

赤小豆 あつぎ  
あけける乃ちうなり新  
りまて粉可して一丈

あげる乃ち養い

澤山 あけける乃ちうなり新  
りまて粉可して一丈

ゆかり あけける乃ちうなり新  
りまて粉可して一丈

星 あけける乃ちうなり新  
りまて粉可して一丈

ゆかり あけける乃ちうなり新  
りまて粉可して一丈

ゆかり あけける乃ちうなり新  
りまて粉可して一丈

ゆかり あけける乃ちうなり新  
りまて粉可して一丈







蒲黄ハハク炒下シヤカ 葛粉カクボのタツ下カ

宋ソウニニ五ゴ 四十草シヨウシヤク一分

右粉コよシくテ葛カク根コン糊コして丸マ一ツ

水ミヅ煎シゆシてのりらちちををららせらり

衄ノド血ケツ菜サイ 茜セン根コン 俗ソク云クニあるルはハす

右ミでん一ツのりちちををららせらり

又方 黑豆クワダマ 茜根センコン 木キ分ブン

耳ミミ草カサ 五イ七シチ一ツ

右粉コのりちちををららせらり

又方 茜根センコン 馬ウマ梅ダイ 木キ分ブン

艾アイ葉エフ 右三味粉ミミのりちちををららせらり

又方 百草ハクソウ 木キ分ブン

右水ミヅををららせらり

右水ミヅををららせらり

又方 鑛炭水クワンタンををららせらり

又方 額カクはハ膠カウとト併ヘイせせり

又方 白木ハクキををららせらり

又方 吹フクいイくクなナり

又方 芍薬シャクヤクはハ白ハク根コンとト併ヘイせせり

又方 芍薬シャクヤクはハ白ハク根コンとト併ヘイせせり

又方 芍薬シャクヤクはハ白ハク根コンとト併ヘイせせり

切キりリ洗セン葉エフ 荷葉カハ

忍冬ニシキ 青木葉アヲキ 芥子カイシ

黃柏ワウハク 藤トウ 藤トウ 藤トウ 藤トウ 藤トウ 藤トウ 藤トウ 藤トウ 藤トウ

右等分ミナミナリ 凡ツラ 濃ツツ 煎ツツ 之ノ 法ホウ 詳シヨウ 見ミ

又方マタホウ 古身コミ 此コノ 刀タガ 之ノ 切キ 之ノ 法ホウ 詳シヨウ 見ミ

くさう物クサウモノ ありその所そのところ へ

こごりコゴリ 葉エバ 小コ 塊クワイ 入イ りぬぬ らぬぬ

あア ーー 又マタ はハ 葉エバ をヲ 煮ニ 之ノ

あア ーー 又マタ はハ 葉エバ をヲ 煮ニ 之ノ

あア ーー 又マタ はハ 葉エバ をヲ 煮ニ 之ノ

あア ーー 又マタ はハ 葉エバ をヲ 煮ニ 之ノ

痺シビ 筋キン 續ツグ 沢蟹サキサヘ 此コノ 足タビ 乃ハ 中ナカ

乃ハ 肉ニク 之ノ 湯ユ 之ノ 粉コ 之ノ 法ホウ 詳シヨウ 見ミ

乃ハ 肉ニク 之ノ 湯ユ 之ノ 粉コ 之ノ 法ホウ 詳シヨウ 見ミ

乃ハ 肉ニク 之ノ 湯ユ 之ノ 粉コ 之ノ 法ホウ 詳シヨウ 見ミ

鼻ハナ 中ナカ 臭ニホ 汁ジュ 出デ 吉キチ

百ヒャク 草ソウ 乃ハ 之ノ 湯ユ 之ノ 粉コ 之ノ 法ホウ 詳シヨウ 見ミ

一イツ 乃ハ 之ノ 湯ユ 之ノ 粉コ 之ノ 法ホウ 詳シヨウ 見ミ

一イツ 乃ハ 之ノ 湯ユ 之ノ 粉コ 之ノ 法ホウ 詳シヨウ 見ミ

又方マタホウ 白芷ハクシ 黄丹ワウタン 硫黄リウワウ

右ミダリ 粉コ 之ノ 法ホウ 詳シヨウ 見ミ

鼻ハナ 内ウチ 生ナマ 肉ニク 出デ 吉キチ

火麻子カマシ 桑サウ 桑サウ 桑サウ 桑サウ 桑サウ 桑サウ 桑サウ 桑サウ 桑サウ

右ミダリ 粉コ 之ノ 法ホウ 詳シヨウ 見ミ



入液 三二日して取りし  
又方 雄黄と一くまの鼻  
中へ入おけし肉むらなり

鼻 此ころぬき

石菖根 皂莢 ホ分

右粉おでむり入り

鼻痛ニ吉 いらぬ粉

てぬる

麩鼻ニ吉 半夏 硫黄

白塩 枯礬

右末分粉おで水とてとれ

わらへ

又方 芥子と此粉おで

あがり粉おで飲る

又方 枇杷葉 山梔子

右粉おでぬる

又方 橘核 杏仁

右此粉おでぬる

又方 百草地

湯おく用魚

又方 蜂房

白粉おでぬる

又方 白粉おでぬる

又方 白粉おでぬる



玉子此をろくふ移りては粉  
養うまふゆりてよく相

あつにおしよをり

又方 輕粉けいこんはくちん 一いまう

杏仁あんごん かんごのこみ此中乃をり

右之色紙いろしを分けて粉して

水ととれぬるべし

鼻下赤爛びげあかたん 吉

大黃だいおう 杏仁あんごん 此中乃をり

右粉して水ととれぬるべし

又方 枯礬こらん 杏仁あんごん

巴豆はづ けり此をむれととれぬるべし

右等分粉して水ととれぬるべし

鼻瘡びそう 吉

杏仁あんごん 此中乃をり

右粉して水ととれぬるべし

又方 良姜りやうきやう 一味粉して

右粉して水ととれぬるべし

又方

干姜かんきやう 一味粉して

右粉して水ととれぬるべし

鼻茸びしやう 吉 硫黄りゅうわう 一いま 没薬ぼつやく

乳香にゅうきやう 各二分 巴豆はづ 一粒

右粉して水ととれぬるべし

又後さのりくや  
くくくく

舌腫物出疼ニ吉

赤豆 沉香 辰砂

各赤分 活礬 各五分

右粉してその紅めぞら

つけくす

根舌ニ吉

取茶一味くせん

又方 芍薬 甘草

右ホ分たてせん

又方 半隻一味せん

紅

傷寒後舌出不入ニ吉

巴豆一味紙に包く

穴へ入おひん

なり

又方 竜腦

舌とれニ吉

辰砂 葛粉

右ホ分たてその紅めく

舌出不入ニ吉

朱砂 粉松木



舌乃入ふゆりてす

舌血流出 ニ吉

生芥 阿膠

右粉おいて湯にて用之

又方 生芥汁と童便と水

分ちあひせて冷湯にて用

此妙なり

又方 蒲黄 分ちあひて粉にて用

青黛 水

右粉おいて湯にて用之

又水にて冷湯にて用

舌痺疼 ニ吉 又ハ中風乃舌

荆芥 雄黄 水

右粉おいて好湯にて用之

小児代舌疼腫 心むいハ強

節 水

齒斷腫疼 ニ吉 又ハ中風乃強

塩 水

齒齲腫痛動 ニ吉

皂角 一两 白塩 半兩

右を湯にて好湯にて用之

虫齒痛 ニ吉













たぐあひをせり

痘疹目<sup>ウツ</sup>吉

白芥子<sup>シロカイシ</sup>とら足<sup>タラ</sup>を

よめりて

酉目<sup>ウ</sup>吉 地膚子<sup>チフコ</sup>

多<sup>タ</sup>んト<sup>ト</sup>は<sup>ハ</sup>を<sup>ヲ</sup>は

眼腫痛<sup>ガンシュウツウ</sup>吉 芥葉<sup>カイエフ</sup>

黄連<sup>ワウレン</sup> 小<sup>コ</sup>分<sup>ブン</sup>

右<sup>ミ</sup>ぞんト<sup>ト</sup>は<sup>ハ</sup>を<sup>ヲ</sup>は

俄<sup>トウ</sup>耳<sup>ミミ</sup>不<sup>ク</sup>聞<sup>ク</sup>吉

香附子<sup>カウブシ</sup> 俗<sup>ソク</sup>云<sup>ク</sup>や<sup>ク</sup>と<sup>ト</sup>子<sup>シ</sup>  
を<sup>ヲ</sup>乃<sup>ノ</sup>補<sup>ホ</sup>け<sup>ケ</sup>す

右<sup>ミ</sup>粉<sup>コ</sup>め<sup>テ</sup>菜<sup>サイ</sup>菴<sup>アウ</sup>子<sup>シ</sup>と<sup>ト</sup>せ<sup>セ</sup>ん

ト<sup>ト</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>ま<sup>マ</sup>を<sup>ヲ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>ま<sup>マ</sup>ら<sup>ラ</sup>

り<sup>リ</sup>ち<sup>チ</sup>白<sup>ハク</sup>へ<sup>ヘ</sup>

又<sup>マタ</sup>方<sup>カタ</sup> 雉<sup>シ</sup>乃<sup>ノ</sup>印<sup>イン</sup>以<sup>ヲ</sup>蠟<sup>ロウ</sup>を<sup>ヲ</sup>祀<sup>ヒ</sup>て

食<sup>シ</sup>と<sup>ト</sup>下<sup>カ</sup>

又<sup>マタ</sup>方<sup>カタ</sup> 黒<sup>ク</sup>雞<sup>キ</sup>乃<sup>ノ</sup>糞<sup>フン</sup>と<sup>ト</sup>黒<sup>ク</sup>豆<sup>トウ</sup>を

入<sup>イ</sup>炒<sup>シヤウ</sup>て<sup>テ</sup>湯<sup>ユ</sup>に<sup>ニ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>き<sup>キ</sup>て<sup>テ</sup>の<sup>ノ</sup>け<sup>ケ</sup>

と<sup>ト</sup>の<sup>ノ</sup>ち<sup>チ</sup>を<sup>ヲ</sup>汗<sup>アヘ</sup>か<sup>カ</sup>き<sup>キ</sup>て<sup>テ</sup>の<sup>ノ</sup>け<sup>ケ</sup>

耳<sup>ミミ</sup>鳴<sup>ナウ</sup>吉

雉<sup>シ</sup>乃<sup>ノ</sup>印<sup>イン</sup>以<sup>ヲ</sup>は<sup>ハ</sup>を<sup>ヲ</sup>入<sup>イ</sup>て<sup>テ</sup>の<sup>ノ</sup>け<sup>ケ</sup>

又<sup>マタ</sup>方<sup>カタ</sup> 吳<sup>ウ</sup>茱<sup>シュ</sup>臒<sup>カウ</sup>大<sup>ダイ</sup>黄<sup>ワウ</sup> 烏<sup>ウ</sup>頭<sup>トウ</sup>

右<sup>ミ</sup>お<sup>オ</sup>分<sup>ブン</sup>粉<sup>コ</sup>め<sup>テ</sup>是<sup>コト</sup>乃<sup>ノ</sup>う<sup>ウ</sup>を<sup>ヲ</sup>は

つけて

虫耳中入吉

半其或粉やして

油あてらば耳中へ入

し

又方 蕪代葉乃をかりを

一つゆへて

又方 蓮葉乃をかりを

一をゆへて

耳中蛾入吉

燈心油をゆへて

へまへて

又方 杏仁 あんどのさし

右紙より油を

取乃中へ入て

停耳吉 俗云いざれば

青黛 黄柏 广香

右豆 あぐさ

又方 桃仁 とうごん

右をゆへて粉やして

して

又方 杏仁 あんどのさし

粉やして

又方 明礬 黄丹



右等分くわい分ぶんりて少すくくくええり  
又方 五倍子 俗云よににががるる  
右粉こなめめて身みれれ中ちゆうへへをを移うつり  
へへててり

又方 搗栗とうりととここままふふ粉こな  
ししここままれれ仲ちゆうよよらら入いてて

耳中腫物出痛みみちゆうしゆぶつしゅつしゆう 吉

蟬せみ乃のぬぬげげぐぐ粉こなりりトトく

ここままれれ仲ちゆうよよらら入いててり

又方 大根だいこん乃のちちりりちちりり入いてて

又方 沽礬こらん名なここららのの二に分ぶん  
辰砂てんさ一いっ分ぶん 沉香せんじやう一いっ分ぶん半はん

右みぎここままれれ仲ちゆうよよらら入いててり

又方 天南星てんなんせい 生せい 南蜀葉なんしやくえつ  
ちちりり

右みぎおお分ぶん粉こなめめて山さん梔し子しれれせせん

トトけけああててらら入いててり

田虫でんちゆう 吉 檜ひの木きのれれをを洗せんひひ

ふふひひりりととままりりててり

又方 蓮肉れんにく乃のちちりりちちりり入いてて

研けんととららここくくをを吉

又方 和大黄 明礬

硫黄 一分

右粉少しを研よくとれりて

又方 吉野葛 大白砂糖

各五分 唐大黄 十文

右粉少して和大黄乃を研り

けしめり研よくとれりて

田虫以麻布よくとれりてその

あくと右乃薬とせりて

苦虫 二言 人參 五分

伽羅 一文 忍冬

右布少して七日中一日

ととる薬してよふに

つあざらなり

又方 紫竹耳皮 苦桃木

苦辛 三文 せんぜんはみ耳皮

六文 あこらうご 二文

右調合してせんぞゆげ乃

うふふふふふ

白癩風 二言 三ろあしどめ

大黄 二分 硫黄 五リ

右粉少してゆえりて

又方 蕪荊子 一味粉少して



好酒をそとれあまらば

布をとりあててひ

すくは際をたけそ

又方 附子 硫黄 木分

右粉より又姜汁をそとれ

乃ち酒をそとれ

又方 枳椇 時氣をそとれ

右粉より酒をそとれ

又方 貝母 南星 木分

右粉より生姜汁をそとれ

又方 知母 此粉は研をそとれ

右粉より

又方 丹礬 牡蛎 木分

右粉より研をそとれ

又方 杏仁 乃粉は研をそとれ

右粉より

躰気 俗云り

田辛 螺乃ち

て丹礬は粉は

入てけ

又方 木香 唐土

右木分粉より

右粉より

又方 明礬 輕粉 俗云ちり  
各一匁 葛粉 二匁 辰砂 二分

右粉中て研いてとれぬ久  
又方 香白芷 活礬 乃て

黄丹 各五分 山椒 二分五厘

右粉中てこくくとり分ては  
撲傷 俗云ちり

山梔子 鯁飩粉 各一匁

右粉中て研いて分ては

又方 楊梅皮 俗云ちり

右粉中て研いてとれ

又方 古麻 小麦藁

真菰 各一匁 大黄

各一兩 合觀 俗云ちり

木通 一兩

右粉中て研いて用ては

又方 川芎 一兩 廉角 二分

胡椒 半兩 天南星 同

大黄 一兩内半匁

右粉中て研いて分ては

又方 生鮮 乃て

又方 生鮮 乃て



粉と移りて行てし  
りひらぎけ多るおもむ

又方 合觀 補じの本は 八分

大山椒根 くろくさ 八分

干鮭頭 くるるれ 韭實 二合

右粉ありて好湯にて破りて  
りらへてし 打やあせり

とし粉小竹りよ 右は口味乃

菜小 輕粉 二分 燒塩 二分 如

て水まくとどねうとくーし

多れ粉やくとどねうとくーし

汁なり 後炮よあつり多る

痛痺小竹粉ありて好湯なり

又方 補じの本 度

つるぞれ本 くろくさ

右粉ありて好湯にて破りて

のまるとべー

湯火傷 俗云やけどり

黄栢 こころこめり十あせり

白粉 かーいれり一合

右粉ありて水まくとどねうとくーし

まを細乃やうありてしこむ

少竹葉乃くろくさまどく

てありけりなり

矢の根其外鉄乃立る菜

あまたらこれ根とよくみり

酒よめてうさづく月一

夜ふりくるなり

又方 ぶらと食せて根

もれ竹あけり毛抜

あくわこめなり

首接葉 杉脂 いふあをいふと

右此菜小ごま乃伸大らまご

ア小一をい入火あけて祈り

水へうらうらうらうらうら

伸をかく

節とくこれ菜

葱白ふ白ゆ糖とく

くくくくく合せけく

膏接の菜

大鮓以丸けりくく

みで天南星小麦取

草等分粉みで右乃

鮓少て祈りけりく

切らくく去毒液くく

こみかいて未分くく

くくくくくくく

骨の膏



筆乃家の内へ入るゝを  
ころろと焼きて冷め  
あてのちあへ

又方 里魚乃ころろと  
あて冷水をあへ

又方 猪目玉思な  
て粉あて竹乃骨え

簽刺乃菜 寒葉石一味  
粉あて細中り

秘のけえ  
かろろのけえ

いぶれ菜 山梔子  
して粉あて

又方 二四つり  
庚申れ日乃報あて

又方 續隨子乃汁  
ゆきごとあて

又方 南星れ粉  
くわつて

又方 瘰癧  
俗云こがいぶれ

海藻はほひ





右づきも葉分ちやうやくは  
て細こふぢしあををんくぐ  
乃志しなりけちよそののへてけ  
し

又方 さいふさいふ此こ葉は 藥くすりありて  
土器つちけ 粉こな

右みぎふふ分ぶんありて細こめて神かみつを  
りけし

又方 いちまろいちまろ根ね瓜うり棚たな神かみつ  
まてまてより葉は一ひとややあど  
ほほととああててりりちちを  
るる一ひとたたくく二ふた夜よりりちちひ

てより痛いたやまのどバニこ

夜よのちちひ

又方 飄ひらくまき 黄栢わうはく 藥くすり

右みぎ粉こなありてああままちち乃の油あぶら  
まてまてととれれ分ぶんりり

疥腫せきしゅニ吉きち 不ふけけ茶ちや 五分ごぶん

やうやう茶ちや

石見皮いしけん 五分ごぶん

五八草ごはちそう 二分にぶん

右みぎ河かををあありりて粉こなあり  
て細こめてめて乃のけけししののど  
葉はととちちりり紙かみふふけけししるる

又方 櫻木皮 但古木吉

右粉ありて葱白乃根はた

了らんと細小らんと糸は練り

灸乃蓋のこく紙と巾着を

まらう一あけて蒸かすこと

又方 糸瓜 豆をこきりて

湯あくりもちるる一

又方 蒼耳子 根はつた

くざれけと二三歳乃男

乃使ふ移り合くのはぐ

又方 葱白 此をかりけ紙

ほ小を合のびへ

又方 蒼耳子 根葉を

お屋を粉ありて研て

らにけへ

ひやうその糸

蚯蚓乃糸後と切腹中

此をを押去てそく後

下くお一合は乃馬糞

紙粉ありて等分あり

てか合せけへ

瘡疹乃糸



蒼耳子ハクシ此花實ハクシ葉  
 二色ニシキ沃ウツク分ぶん分ぶんて粉こなふ  
 してして黒豆くろまめ沃ウツクりりここが  
 研こふひりりをのけあて  
 りち申まらら

又方 苦參くさん沃ウツク粉こな分ぶんとと皂さい  
 角かくとと豆まめトとののけあて  
 丸がんトとののちち魚いべい

又方 鯉こい乃なりううろろこことと皮かわをを  
 分ぶん粉こな分ぶんててせせせせ

又方 牛麻ぎゅうま乃なり豆まめトとけあて  
 沃ウツクふふりり

瘡菜そうさい 葱白根しょうはくこん 生毒せいどく

右みぎ木き分ぶんををりり合あ術じゆつ小せう火か小せう  
 ててははここめめここささくくままりりて

ここのの瘡そうれれ菜さい

牛膝ぎゅうせき 俗云俗云いのいのここううちち  
 ここふふ苦くののりり

右みぎ粉こな分ぶんててほほああののせせへへ  
 小兒せうじ瘡そうれれををれれ菜さい

牛糞ぎゅうふんややれれぬぬへへ妙めうくく

錢瘡せんそう痒かゆしてして癩れん分ぶんををりりああるる

柳やなぎ汁じゆををととんんトとああららふふ  
 乃なり其そのれれ時ときにに枝えだもも香か

小兒眉瘡此菜

小麦乃粉以酒和之粉

して酒を以て之をこねて

小兒驚馬風

燕巢乃中の屎と温

湯少くたてておひたれ

ひ氷く除けり長生

乃聖法なり

小兒疳積

當飯此粉を以て炊之

小兒疳積

此粉を以て炊之

痘瘡 吉

芭蕉此葉生してこみ

豆下りちあへて

又方 沉香 紅花 俗云をに

各一匁 金箔 二枚 莪朮 二分

赤牛屎 五月三日四月

二色以和牛に之を以てその屎を

とりて又月又日乃夜

瘡瘡色を以てけり

紅花と粉 鐵基よみ

金箔と粉 虫氣よみ



我木と坊かあるよ  
牛屎とよめ細く炒り

よん沉香とすうん

右此菜を紅乃筋つとすり

焼くゆらゆ一帖を二日とこ

日も用その後せんと用

諸小瘡水瘡 吉

雷丸油 三々 章腦 一々

白粉 一々

右茶豆ん少くくはり分を  
て分りたり

又方 あらめ黒豆と粉ふ

くそ餅とく種り分べ

又くそ乃を種りけり

も分べ

又方 小豆粉 土器粉

右ホ分をこすけけ分べ

又方 右をれなよとらり分べ

くそやこれ菜とすうん

芥子とすうん

少くひつとらとわらて

又方 麻角 俗云まけつのみ

右まけつのみとすうん

て分べ

頭瘡ニ吉 小麦 胡麻 烏梅

杏仁 各半分

右いづきもくろ海やこみく

をりけいへ

又方 檳榔子と粉

てとりのけいも

又方 松花

わさわして軽粉

くまへてこまはゆ

移りけいへ

生姜 芋分

俗云

又方 五倍子

右沙焦水

又方 急燥節

右粉

白秃瘡ニ吉

桃花の皮を

ちゆべ

又方 百草

粉法



又方 榆白皮ユズクハ粉コ好ヨク砕ク

又方 又てどれゆか

元ハ此ノ藥ヲ 丹礬ニ 朱砂ヲ 砕ク

硝砂シヤウサウ 碎ク

右粉コ一ツて 猪脂イノアヲ一ツとれ

ぬるル也ナ

又方 茅根チヤウネ 又て根ノ一ツとれ

右ノ粉コ一ツて 粉コ一ツとれ 他ノ

小兒五疳コノコノ此ノ藥ヲ

檳榔子ヒンナウシ 三ツ分

紅花ベニバナ 七ツ分

射干セツカン 十ツ分

史君子シコノコ 三ツ分

取草クセウ 五ツ分

右ノ粉コ一ツて 年ノ此ノ救ク也ナ

陽ノ一ツとれ 一ツとれ

諸疳シヨカン 此ノ藥ヲ 能ク茶ヲ 一ツとれ

沉香セウキョウ 一ツとれ 巴豆ハトウ 一ツとれ

馬地ウマヂ 一ツとれ

右ノ粉コ一ツて 粉コ一ツとれ 一ツとれ

救ク也ナ 一ツとれ 一ツとれ

諸虫シヨチュウ 一ツとれ

乾漆ケンシツ 一ツとれ

蘇夷仁ソウイニ 一ツとれ

石粉いしこなにして力もちゆかり

又方 蕪夷仁わいじん 霍亂くわらん 兵郎べいろう

右 蕪夷仁わいじん 分ぶん 粉こな ありて用もち けり

トク用もち 寸すん 白虫はくちゅう とと せ

又方 葛粉くわこん 二十目にじゅうもく 黄柏わうはく 十五じゅうご

胡椒粉こしょうこな 五ご 耳草みみくさ 五分ごぶん

右 細こ 丸まる 一いち 寸すん ちゆり

大虫おほむし 此菜こしさい 大虫とて虫つしこころこし

三年味さんねんあじ 噌そう 公こう 平へい 燈とう 明めい

藥くすり 一いち 寸すん ちゆり

右 合あひ 在あ 膝ひざ 一いち 寸すん ちゆり

又方 肉桂にちくわい 取草しゆくさう 木分もくぶん

右 取草しゆくさう 三さん 分ぶん

又方 金名草きんなんそう 俗去ひんじ 十五じゅうご

右 細こ 丸まる 一いち 寸すん ちゆり

右 細こ 丸まる 一いち 寸すん ちゆり

右 細こ 丸まる 一いち 寸すん ちゆり

右 細こ 丸まる 一いち 寸すん ちゆり

又方 取草しゆくさう 一味いちゐ 一いち 寸すん ちゆり

右 取草しゆくさう 一いち 寸すん ちゆり

麻病ましやう 吉きち

批杷耳皮ひぱりみ 一いち 寸すん ちゆり 輕安けいあん 二に 分ぶん

石見皮いしけんぴ 一いち 寸すん ちゆり

取草しゆくさう 五ご 分ぶん



右一カクシクエズノ 益後用

又方 瓜ら丸 轉筋子

茯苓五分 取草五分

右あり湯あり出貝

又方 川蠅 瓜ら丸

瓜ら丸 取草五分

葛粉五分

右此菜二枚あり湯

くく入ふなりなり

瓜ら丸

又方 木通七分 沢泻五分

排實五分 取草二分

右瓜ら丸ハ排實二十粒

と壳たふつさくさく水八合

入七合ふ瓜ら丸二番あり

七合入六合ふ瓜ら丸

又方 瓜ら丸

陳皮五分 茯苓同

半復一分 取草三分

右瓜ら丸

又方 枇杷實二分 輕石三分

大黃一分

右瓜ら丸

汁をそのらゆるなり

又方 葶苈<sup>チイ</sup>をうすくわす

うすくわすははげが

しして刻<sup>キ</sup>らるゝあふ

してせん<sup>セン</sup>のち

又方 小便<sup>シヤウベン</sup>乃つてま

車<sup>クルマ</sup>散<sup>サン</sup>子<sup>シ</sup> 冬<sup>フユ</sup>葵<sup>アヒ</sup>子<sup>シ</sup>

滑石<sup>クワシ</sup>

右<sup>ミドリ</sup>等<sup>ナニ</sup>分<sup>ノ</sup>をせん<sup>ト</sup>のち

又方 莖<sup>シ</sup>れ<sup>レ</sup>を

耳<sup>ミミ</sup>草<sup>クサ</sup> 延<sup>エン</sup>胡<sup>コ</sup>索<sup>ソク</sup>若<sup>ニク</sup>

棟<sup>トウ</sup>い<sup>イ</sup>二<sup>ニ</sup>又<sup>マタ</sup>と<sup>ト</sup>は<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>煮<sup>ニ</sup>て

一<sup>イチ</sup>を<sup>ヲ</sup>せん<sup>ト</sup>のち

又方 同 西瓜<sup>スイカ</sup>とせん<sup>ト</sup>のち

又方 同 黄柏<sup>ワウハク</sup>とせん<sup>ト</sup>のち

小便<sup>シヤウベン</sup>閉<sup>ヒ</sup> 小便<sup>シヤウベン</sup>乃つて

背<sup>セ</sup>れ<sup>レ</sup>と<sup>ト</sup>を<sup>ヲ</sup>せん<sup>ト</sup>のち

しして耳<sup>ミミ</sup>草<sup>クサ</sup>と<sup>ト</sup>は<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>

せん<sup>ト</sup>のち

又方 蒜<sup>ニンニク</sup> 山<sup>ヤマ</sup>梅<sup>バイ</sup>子<sup>シ</sup> 木<sup>キ</sup>分<sup>ブン</sup>

右<sup>ミドリ</sup>等<sup>ナニ</sup>分<sup>ノ</sup>をせん<sup>ト</sup>のち

又方 枯<sup>コ</sup>藁<sup>ガウ</sup> 一<sup>イチ</sup>を<sup>ヲ</sup>せん<sup>ト</sup>のち

又方 枯<sup>コ</sup>藁<sup>ガウ</sup> 一<sup>イチ</sup>を<sup>ヲ</sup>せん<sup>ト</sup>のち



木通 同 麦門冬 一兩  
車神 二五

右七味はさくらもちでん下用也

又方 家内れ海小炭れく  
粟はくろく 蜂とらりく  
かぶら 紙よりて

又方 籾とらりけり  
籾とらりけり 根瓜  
さくらもち 洗刻粉めて  
味香ひあつ湯と煮て  
ん二をいたてて右の葉

又方 籾とらりけり  
籾とらりけり 根瓜  
さくらもち 洗刻粉めて  
味香ひあつ湯と煮て  
ん二をいたてて右の葉

大便閉 大便乃つてせうらう  
葱白 白ごころ 薬とらんを  
つふ白塩等分合して  
紗布にひく 脂ひわて  
ひく

又方 牽牛子 大黃 小分  
右粉めて細く丸く  
又方 牽牛子 皂莢 小分  
右粉めて細く丸く  
又方 車遂石粉めて蜜

又方 車遂石粉めて蜜

あて用也又腫はれりて

便數遺屎

中夜をりくあまふ小  
便の多き事

香附子以粉和して湯

又方

腎虚して汗多し

破故子

胡麻と入り湯

茴香

ほろひ

右紫分粉和して湯をこ

らゆべ

又方

あまのこや夜をり

明礬

蚘壳

各等分

右粉和して湯をこ

便毒

俗云こころあ

桐木

厚皮

枯礬

乃を湯

右紫分粉和して湯をこ

又方 大釜灰

百拜て灰の土を

いため皮を湯で洗

右紫分和して湯をこ

汗中を湯で洗

て湯をこ

又方

合歡花

厚皮

て湯をこ



うき碎りて用ひし  
よきひらきし

又方 ころもんを記す

粉にしてあきく用ひ

疝気ニ吉

黄柏 ころもんの生のはらひ

蒼朮 五々

右粉にして湯中に入れて

てと病人よき用ひし

又方 葛箒葛根

桑耳皮 五々

ころもん 桑耳皮

またり 木香 各半

右つひれとせんど用ひし

又方 呉茱萸 俗をせんど

草烏頭

右粉を粉にして糊して丸

三十粒つかりし

又方 松葉の香附子

右等分粉にして丸

カサの丸

下風此葉 檉柑はらひ

粉にしてかりし

ほめても用ひし

又方 黄芩 木通 耳

右等分してせん用へ

赤白朮 癩気

呉茱萸 三兩

内一両八割はひひり散る

内一両破し夜にひり散る

内一両塩末に夜にひり散る

右粉にして蒸一少くみづ湯

まで一月二夜で七日中

用る

又方 木綿實 皮とさう

香高麦粉 二五 棋桐子 五

木香 一両

右刻一帳二五づつおれ

せん一りちゆへ

又方 胡桃其内実壳を子

よく粉にしてるる乃

せん湯を日る

囊爛 吉 せんたぎしてるる

鬼と毛オムツツやこ

て七日と二七日も湯を

せん

又方 蠶もみちりるる

破故紙粉にして一



之度て湯少く用一  
又方 白姜ひやくきやう蚕粉さんぷん粉こなして用也

陰瘰いんれつ 陰多てわがうさるる

覆盆子ふくせんしも

右 漏ろうひいた一粉こなして一果

之をつかり色へ一

又方 鬼糸子きしすし 蛇床子じやうじやう

五味子ごみし

右 葶てい分ぶん粉こなしてかり色へ一

又方 天雄頭てんゆうとう 鬼系子きしすし分ぶん

右 粉こなしてまじ下した卵たまごふつこま

之をさう半ちゆう細ちゆうしほをりかり色へ

陰瘰いんれつはつとくし子こみみ

之をせり妙めうなり

脱肛だつこう此菜こしさい 防風ぼうふう 雞頭花けいとうか

右 葶てい分ぶん粉こなして糊のりとく丸がんト

かり色へ一

又方 雞頭花けいとうか 羌活きやうかつ

之をり此こ灰はい

右 葶てい分ぶん粉こなしてりかり色へ一

又方 慈石じせき砒石ひせき煨あ研ぎんしし

粉こなして用又頭かう乃なおど

了り系けい外がい々々妙めうなり





水腫は棗しつこきまで  
宿をせよとてす

下血ニ吉

管附子以膏浸之  
その後破之無砂粉  
して用へし或は石菖  
子屋之と廣香と之  
々之て妙なり

又方 五倍子 白芷 葶分

右細く丸し湯へ二十粒  
づりちゆへし

又方 鮓以味ゆかん魚骨へ

又方 串柿れらるるを丸し

しと粉してとここの  
をんしけりて用へし

又方 草薢ところけり 鐵いむかり

右粉して用へし

又方 槐花 枳壳 枇杷葉

右等分粉して食此湯にて用

遺精 ゆづり 精れりし

菟系子 蓮肉 茯苓

右等分粉して用へし

又方 蓮肉 益智 龍骨

此の湯をせし  
後、おろしとす

右藥を粉にして用ひて  
散とす

又方 紫皮と細く切あはら  
し

傷治す

吐血ニ吉 茜根 俗云あまの  
草

右豆ん一用ん

又方 茜根 耳州 黑豆

右ホ分細く用ひて

又方 茜根 馬梅 艾葉

右ホ分細く用ひて

又方 薺金此粉はゆい用ひ  
て

又方 小らとらにけとら

膏便とやき分りて用ひて

脚氣ニ吉 忍冬 冬ごま

粉にして用ひて

又方 紫菀 良香 陳皮

右等分粉にして用ひて

又方 是れをくまらて

苗香此粉は用ひて

又方 五加皮 五加皮根

右に用ひて

又ハ海小浸りて丸にして

又ハ牽牛子











いんげん豆を煮て一服とす  
荷葉瓜を煮る

又方 山椒子 大さき豆 黄柏 四

取草 五分

右をんでから煮る

又方 小児豆 一たん

黄連 胡黄連

右此茶と馬乳を煮る

その中へ入て小麦粉は水と

煮り馬乳と煮る

へ入燻して小麦と煮る粉

しからゆ

水腫 吉 小豆を煮る

鼠枯子 炒粉を煮る

一ひふこぶつからゆ

又方 虫つかりて煮る

小麦粉と糊を煮る

又方 呉茱萸 枳壳 各二

茯苓 一兩

右一くみして生薑を入ん

癩癩 俗云つらつら

一まろ 煮る

粉分りて一くみ八分つ湯

からゆ





右薬分をんじりしる

又方 姜はりしる法粉

しでかんらりしる粉の

子かんじりしる粉の

てしる粉

長血れ葉 香薷子

白芍薬 地黄

右薬分をんじりしる

一くわしりしる水天目

七分をんじりしる

又方 黄柏 一両

一両 煎じりしる

右粉をんじりしる

又方 茯苓 一両

黄柏と水に浸し

乃て煎じりしる

ゆへに

喘息れ葉 陳皮 五分

紫蘇子 五分 杏仁 日

右をんじりしる

亦方 老人れんじりしる

よて菜服子蜜と

亦方 杏仁と香薷子

煎じりしる粉の





少て丸せんりりらら丸丸一一

又方 此丸此丸はは新新ししららひひてて丸丸一一

陳皮ちんひと生姜汁しょうがのし一一合合たた一一

乾かん一一葉葉又又一一片片をを丸丸ににああわわせせてて丸丸一一

ゆゆをを黄蓮わうれんと苦参くさんをを丸丸ににああわわせせてて丸丸一一

あありりてて丸丸一一

五臟ござう 一一合合をを丸丸ににああわわせせてて丸丸一一

陳皮ちんひ 枳實しじじつ 等分

生姜しょうがをを入入てて丸丸一一合合をを丸丸ににああわわせせてて丸丸一一

又方 阿魏あゐ 五靈脂ごれいじ

右粉みぎこなをを丸丸ににああわわせせてて丸丸一一

又方 枯礬こらん 硫黄りゅうわう 等分

右みぎくく炒あぶ朱砂しゆさをを丸丸ににああわわせせてて丸丸一一

又方 ままじじ此肝ここのかんをを丸丸ににああわわせせてて丸丸一一

湯ゆをを丸丸ににああわわせせてて丸丸一一

又方 胡桃こゝろ乃なららばば丸丸ににああわわせせてて丸丸一一

あありりてて丸丸一一

又方 麻あしれれ腸ちやうととそのそのままをを丸丸ににああわわせせてて丸丸一一

ややににあありりてて湯ゆをを丸丸ににああわわせせてて丸丸一一

湯ゆをを丸丸ににああわわせせてて丸丸一一

既逆きさくニ吉

香附子かうぶし 藿香くわかう 藜れい 等分

右みぎをを丸丸ににああわわせせてて丸丸一一

又方 硫黄りゅうわう 冰銀ひやうぎん 等分



右をのりいれたる生等此あり  
けしきと飯とのへて丸し用

又方 陳皮 一五 干姜 二五

右をんとらちのへし

積聚 つくはれり

香附子 破きて煮ゆ

右粉ありて糊とて丸し用

又方 枳榔子 大黃

右等分粉あり丸し用

又方 香附子 木香 等分

右粉ありて生等此とて粉

すうらくたりと

とらふんこふ

らうさしさい

らうさしさい

らうさしさい

らうさしさい

らうさしさい

らうさしさい

らうさしさい

らうさしさい

本草綱目

卷之十

村上藏